

令和4年発行

# 都城盆地 畑地かんがいだより 《第34号》



畑かんを広報するデザインが完成!



畑かんのパイプラインと  
スプリンクラーの水しぶきをイメージ

## 都城盆地の畑地かんがい事業の進捗状況について

※散水風景（散水チューブ使用）

都城盆地の広大な受益地（農地）3,966ヘクタールを賄う木之川内ダム建設やファームポンドの設置など、国営事業は平成22年度に完了しました。

給水栓を設置するための配管工事など関連事業は、令和2年度までに1,655ヘクタールが完了しておりダムからの水の供給が始まっています。

現在、牧之原地区、払川地区、石山地区、縄瀬地区ほか12地区で給水栓設置の工事ならびに農道の整備を実施しており、面積ベースで全体の約52%の進捗状況となっています。

これからも畑地かんがい営農の普及を図るため、事業の早期完成と散水器具の導入を積極的に推進してまいりますので、皆さまのご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

※ファームポンドとは標高の高い位置に設置され、ダムから汲み上げられた水を一時的に貯蔵する農業用施設です。その高低差によってバルブを開くと水が出る仕組みです。

## 畑地かんがいを利用した畑作営農の紹介

### 内村 不二雄 さん（志和池）生姜に使用。10a 当たり 4 トン目標！

畑かん関係者から試験的な水利用を勧められたのをきっかけに、補助事業を活用して平成 29 年に大型スプリンクラーと立上げ式スプリンクラーを導入しました。

内村さんは主に生姜に使用されています。使用する期間は、お盆前後から収穫が終わる 10 月末を目途にされていました。特に実が肥大化する 9 月から 10 月にかけて水の影響で収量が大きく変わるため、雨が降らない時は積極的に散水を行っているそうです。

「畑かんが身近な所にあったら絶対、使った方がいい」と話されていました。散水器具の設置と撤去に要する時間を惜しまず、手間暇かけることで収量が増え、経営の安定にも繋がると最後に力強く話されていました。



（生姜畑の風景）



（出荷前の作業の様子）



（耕作者の内村さん）

### 吉田 功一 さん（中郷）ニンジンに使用。発芽、成長促進に期待！

「畑かん」については以前から興味があったそうです。お試し期間★を利用してニンジンの種まき後に散水したところ、発芽が良くなり以前より収量が増えたそうです。これを機に散水器具の導入を申し込みされました。

ニンジンの種まきは 8 月のお盆前後に行ないます。発芽の条件はとてもデリケートで干ばつや高温の影響を受けやすく、また、夕立のような激しい降雨があると、土の表面に固い層（1 cm 程度）が出来てしまい、地表に芽が出て来ないこともあります。

そうならないために「畑かん」を利用します。今は散水チューブという器具があります。チューブに無数の穴が開いており、柔らかい水が畑の表面をほどよく濡らしてくれます。そのお陰で発芽率が向上して収量アップも期待できます。

吉田さんは甘藷も作付けされています。近年、気象災害や地球温暖化などが心配されるなか、日照りが続く時は、「畑かん」を積極的に活用し初期生育を促したいと話されていました。

（お試し期間★とは、散水器具の導入を検討されている方に、一定の条件で貸出しを行なっています）



（ニンジン種まき後に散水）



（芽が出た後も散水して成長を促す）



（甘藷収穫中の吉田さん夫婦）

## 山之内 幹雄 さん（上長飯）花、野菜の種まき・植付けに散水チューブが大活躍！

サラリーマンを 65 歳で定年退職され、現在は花・露地野菜など一年を通して 40 種類以上（うち 15 種類程度は花）の作物を育て販売されています。

農業に携わって 5 年目の山之内さんは、大好きな花に囲まれて第二の人生を過ごされています。

「畑かん」の利用は、春と秋の種まき・定植の際が多いそうです。特に黒マルチを使う時に散水すると地温の上昇が抑えられ、発芽・活着が良く、その後の成長が促進されるとのことでした。

出荷先は全て直販所を利用されています。父の時代は市場へ出荷していたので市況に左右されていましたが、今は自分で価格を決められるため、収益が増えたそうです。また、花の出荷時には一部、山之内さん本人が「フラワーアレンジ」して出荷されていました。

山之内さんにとって「畑かん」は欠かせない存在となっています。これから、もう少し面積を増やしたいそうです。そのため給水栓が設置してある畑を貸してくださる方を探されています。



（散水チューブで生姜・キャベツにかん水）



（ケイトウ・アスターの花）

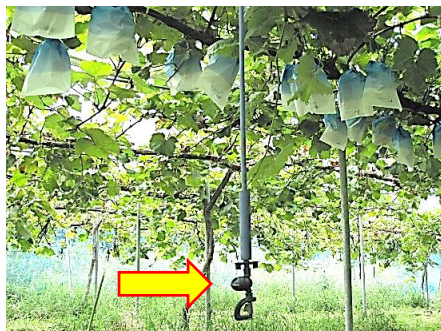


（出荷前の花）

## 牛谷 清美 さん（山田）まだまだ農業は勉強中！畑かで良質な作物を作りたい！

吊下げ式スプリンクラーを使用してぶどう園の散水。点滴チューブはパプリカ、スイートコーンの肥培管理。かぼちゃの日照り対策に立上げ式スプリンクラーを利用されています。牛谷さんは一人で農業をされています。そのため、散水タイマーや液肥混入器を組み合わせ、省力化を図られており、「畑かん」の事業を有効に活用されています。

本格的に農業に取り組んで 4 年目の牛谷さんは、「農業の経験が浅く毎日が勉強です。上手く行かないことが多いですよ」と苦労話をして下さいました。また、メインのぶどうは都城管内では珍しいため、知り合いの方から指導を仰ぎ、露地野菜は近隣の農家さんからアドバイスをもらいながら試行錯誤の日々が続いていますと話されていました。



（ぶどう園の吊下げ式スプリンクラー）



（定流量停止弁、液肥混入器、散水タイマーの組み合わせ）



（点滴チューブでかん水）

## 小さな畑でも役立つ畑かん！毎日の散水がラクに♪

小さな畑でいろいろな野菜を育てられている江口正さん。  
畑かんを使って水を運ぶ重労働から開放され、毎日楽しく野菜作りに汗を流されています♪



畑かん水道

## 畑かん試験結果の報告 <甘藷の植付け時散水効果の実証>

<目的>甘藷の植付け時期に高温・乾燥が続くと茎葉の枯死や活着遅延を起こすだけでなく、畝立てや植付けが遅れ、計画的な作業が難しくなります。そこで、植付け時の散水効果について検討しました。



(散水チューブによるかん水)



(かん水区：定植4日後)



(無かん水区：定植4日後)

<結果>植付け時に散水しなかったところは、約3割程度の欠株がみられましたが、散水したところは、ほとんど欠株がありませんでした。生育についても草丈、株張り共にかん水区の方が良く、根の本数も多く、しっかりと根が張っていました。10アール当りの収量は無かん水区の2,100kgに対して、かん水区は3,400kgに増収しました。

## 畑かんマイスターの紹介

畑かんマイスターとは、「畑かん」の積極的な利用や周辺地域への広報、行政等への畑かん推進の助言などを行ってくださる方です。平成24年からマイスター制度が始まり、今年で4期目になりました。新たに3名(写真)の畑かんマイスターが加わり7名で活動しています。



(新) 栗原貴史さん：横尾原地区



(新) 重富貴哉さん：石山地区



(新) 大石春樹さん：牧之原地区

<引き続き活動して下さる4名の皆さん>

①内山 良平さん  
(前方地区)

②兒玉 圭亮さん  
(縄瀬地区)

③梶 良作さん  
(払川地区)

④牧田 幸司朗さん  
(森田原地区)

<発行元>

都城市	北諸県農林振興局	農業改良普及センター	三股町
農政部 農産園芸課 (畑かん営農推進担当) 住所：都城市姫城町 6-21 電話：0986-23-2425	①農村計画課 ②農村整備課 住所：都城市北原町 24-21 電話：①0986-23-4514 ②0986-23-4515	農業経営課 住所：都城市高木町 6464 電話：0986-38-1554	農業振興課 (農林整備係) 住所：三股町五本松 1-1 電話：0986-52-9089